

3 学力向上に向けた施策取組結果等の状況

(1)「みえの学力向上県民運動」における成果指標及び取組指標に関連する項目の分析
(質問紙調査項目 p. 66～p. 68 参照)

【児童生徒質問紙】

《自尊感情について》

小学校・中学校

(分析)

- ・「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している」、「将来の夢や目標を持っている」と回答している児童生徒は、全ての教科で平均正答率が高い傾向が見られます。
- ・「自分には、よいところがある」と回答している児童生徒は、全ての教科で平均正答率が高い傾向が見られます。

小学校 (改善ポイント)

学ぶことや働くことの意義について理解させたり、自分の将来について具体的な目標を立てさせたりする機会を設定することが必要です。例えば、身近な人から仕事に対する思いや生きがいについて話を聞くことも有効です。

また、できたことをほめ自分の良さに気付く経験を増やすことにより自尊感情を育むことが大切です。例えば、ありがとうの気持ちを伝え合うメッセージカードを友達と交換し合ったり、図画工作の作品などをクラスで評価し合ったりする取組が考えられます。

中学校 (改善ポイント)

キャリア教育に関わる体験活動等を通して、職業への意識や学習と日常生活を関連付けたり、自己の生き方や進路を真剣に考えさせたりすることが大切です。

例えば、様々な職種で活躍する卒業生や地元の方などをゲストティーチャーとして招いての講演会や、道徳の時間に学問や科学技術等の発展に寄与した人物を取り上げることが考えられます。また、自尊感情の向上のためには、日頃の授業等において発言や本人が書いた感想・コメント等を丁寧に取り上げることが大切です。

①-1 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。[質問番号(5)]

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

三重県：75.4% (全国：75.1%) +0.3

三重県：69.5% (全国：68.0%) +1.5

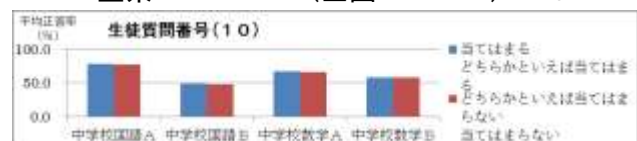
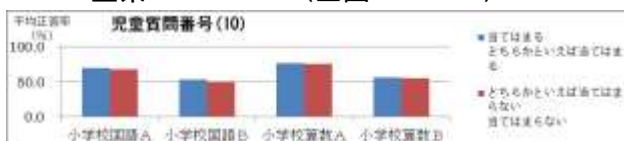


①-2 将来の夢や目標を持っていますか。[質問番号(10)]

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

三重県：85.8% (全国：86.7%) -0.9

三重県：71.6% (全国：71.4%) +0.2

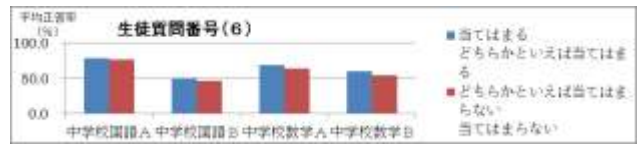
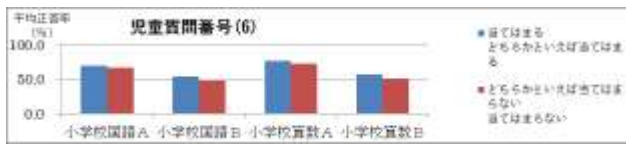


②自分には、よいところがあると思いますか。〔質問番号(6)〕

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

三重県：75.7% (全国：76.1%) -0.4

三重県：69.1% (全国：67.1%) +2.0



《基本的な生活習慣について》

小学校・中学校

(分析)

- ・「朝食を毎日食べている」、「毎日同じくらいの時刻に寝ている、起きている」と回答している児童生徒は、全ての教科で平均正答率が高い傾向が見られます。

(改善ポイント)

基本的な生活習慣については、学校が家庭と連携して定期的に子どもたちの実態を確認し、必要な改善を図ることが必要です。

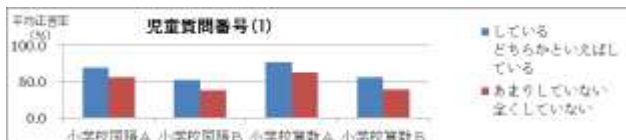
例えば、「みえの学力向上県民運動」でキャンペーン期間を設定し取り組んだ、「読書習慣・生活習慣チェックシート」等を活用した取組を継続して行うなどして、習慣化を図ることが大切です。

③-1 朝食を毎日食べていますか。〔質問番号(1)〕

(「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合)

三重県：95.7% (全国：96.0%) -0.3

三重県：93.3% (全国：93.5%) -0.2



③-2 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。〔質問番号(2)〕

(「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合)

三重県：78.3% (全国：79.2%) -0.9

三重県：75.0% (全国：74.1%) -0.9



③-3 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。〔質問番号(3)〕

(「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合)

三重県：90.9% (全国：90.9%) ±0

三重県：92.3% (全国：92.1%) +0.2



《学習状況について》

小学校・中学校

(分析)

・「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」、「宿題、予習・復習をしている」と回答している児童生徒はそれぞれ、全ての教科で平均正答率が高い傾向が見られます。

(改善ポイント)

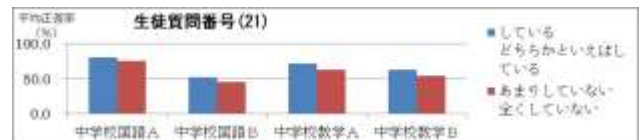
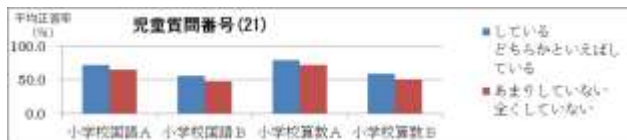
宿題を与えるだけでなく、学校で家庭学習の手引きを作成するとともに、一人ひとりの取組を確認するなど、児童生徒が主体的に復習するための手立てを学校全体で検討し、共通認識を持って指導を進めることが必要です。また、児童生徒が行ってきた家庭学習については、必ず点検するなどの見届けと励ましが必要です。さらに、家庭との連携も重要です。

④家で、自分で計画を立てて勉強していますか。[質問番号(21)]

(「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合)

三重県：59.4% (全国：61.0%) -1.6

三重県：47.3% (全国：46.6%) +0.7



⑤家で、学校の宿題をしていますか。[質問番号(22)]

(「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合)

三重県：97.3% (全国：96.5%) +0.8

三重県：87.7% (全国：88.2%) -0.5



⑥家で、学校の授業の予習をしていますか。[質問番号(23)]

(「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合)

三重県：42.0% (全国：43.2%) -1.2

三重県：34.6% (全国：34.2%) +0.4



⑦家で、学校の授業の復習をしていますか。[質問番号(24)]

(「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合)

三重県：48.7% (全国：54.0%) -5.3

三重県：45.5% (全国：50.4%) -4.9



《読書について》

小学校・中学校

(分析)

- ・「学校図書館・室や地域の図書館へ行く頻度が多い」と回答している児童生徒は、全ての教科で平均正答率が高い傾向が見られます。

(改善ポイント)

各学校において、計画的に学校図書館等を活用した授業づくりを推進したり、各学校の図書委員会等の活動で、「図書館まつり」等の活動を定期的に行ったりするなどして、目的に応じた読書の方法を学ばせるなど、児童生徒に生涯にわたる読書習慣の育成を図ることが必要です。

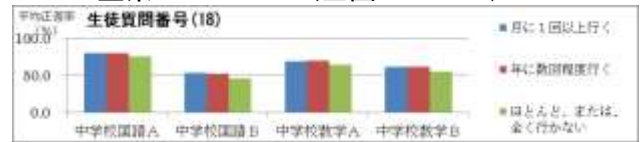
また、「みえの学力向上県民運動」においてキャンペーン期間を設定して取り組んだ、「読書習慣・生活習慣チェックシート」等を活用して、家庭と連携した読書習慣の形成に取り組むことも大切です。

- ⑧本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・室や地域の図書館へどれくらい行きますか。(教科書や参考書、漫画や雑誌除く) [質問番号(18)] 「だいたい週に4回以上行く」「週に1～3回程度行く」「月に1～3回程度行く」と回答した割合

三重県：42.1% (全国：42.9%) -0.8



三重県：18.4% (全国：18.9%) -0.5



《家庭・地域について》

小学校・中学校

(分析)

- ・「家の方は授業参観や運動会などの学校の行事に来る」と回答した児童生徒の方が、全ての教科で平均正答率が高い傾向が見られます。
- ・「今住んでいる地域の行事に参加していますか」と回答した児童生徒の方が、全ての教科で平均正答率が高い傾向が見られます。
- ・家の方が学校行事に積極的に参加することは、家庭が学校教育に関心を持って、連携・協働することにより学力向上に結び付いたと考えられます。

(改善ポイント)

家庭や地域においては、家の方の学校行事等への積極的な参加や、児童生徒の主体的な地域行事への参加が活発になるよう、学校、家庭、地域が連動協力して児童生徒の教育環境の一層の充実に取り組むことが大切です。

- ⑨家の人（兄弟姉妹を除く）は、授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか。 [質問番号(20)]

(「よく来る」「時々来る」と回答した割合)

三重県：97.4% (全国：96.5%) +0.9



三重県：78.8% (全国：83.1%) -4.3

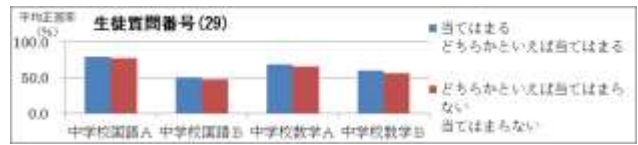
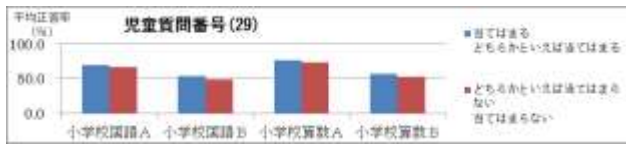


⑩今住んでいる地域の行事に参加していますか。[質問番号(29)]

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

三重県：73.2% (全国：68.0%) +5.2

三重県：50.4% (全国：43.5%) +6.9



【学校質問紙】

《全国学力・学習状況調査等の活用について》

小学校・中学校

(分析)

- ・本県において、平成25年度全国学力・学習状況調査や独自の調査等の結果を、学校全体で教育活動を改善するために、90%以上の学校が活用したと回答したとしています。全国的には、平均正答率が高い学校では結果を活用した取組が行われていることから、今後、より効果的に活用していくことが必要です。

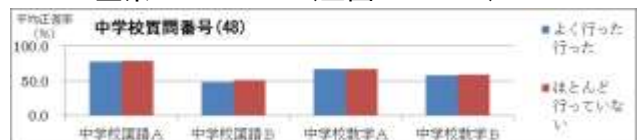
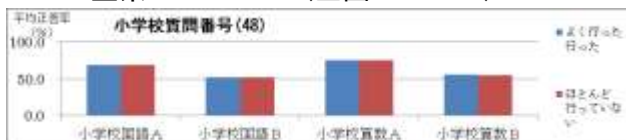
(改善ポイント)

全国学力・学習状況調査や独自の調査等の結果を、全教員で共有する必要があります。また、学年や教科の枠を越えて学校全体で問題を解くことが必要です。さらに、解答用紙をコピーして自ら採点し、解答類型と併せて分析する中で、児童生徒に身に付けさせるべき力を学校全体で共有し、早期に授業改善に生かす取組が大切です。

⑪平成25年度全国学力・学習状況調査や独自の調査等の結果を、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか。[質問番号(48)] (「よく行った」「行った」と回答した割合)

三重県：92.9% (全国：93.6%) -0.7

三重県：91.4% (全国：90.4%) +1.0



《学校図書館の活用について》

小学校・中学校

(分析)

- ・小学校では、授業での学校図書館の計画的な活用状況と教科の平均正答率との間に明らかな関係は見られませんが、中学校では、学校図書館を活用した授業を計画的に行った学校の方が、平均正答率が高い傾向が見られます。
- ・全国では、小中学校ともにB問題と一定の相関が見られます。

(改善ポイント)

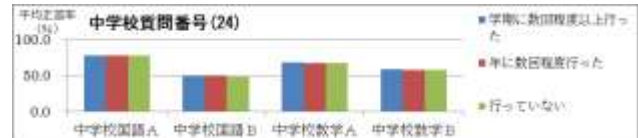
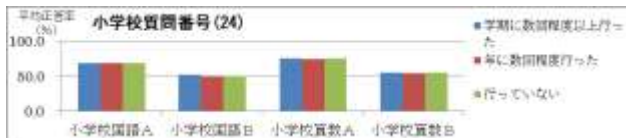
学校図書館を活用した授業づくりの内容を検証し、各教科で積極的に推進する必要があります。各学校において、学校図書館を計画的に活用した授業づくりを各教科でさらに工夫し推進する必要があります。

例えば、各教科の学校図書館の利用については、国語科における本の読み比べや社会科における調べ学習、総合的な学習の時間におけるプレゼンテーションのための資料づくりなど、学校図書館司書と連携し、アドバイスをもらうなど、各教科の年間計画に学校図書館の利用を位置付けていくことも大切です。

- ⑫小学校第6学年の児童・中学校第3学年の生徒に対して、前年度に、学校図書館を活用した授業を計画的に行いましたか。〔質問番号(24)〕（「週に1回程度、またはそれ以上行った」「月に1回程度行った」「学期に数回程度行った」と回答した割合）

三重県：77.2%（全国：80.5%） -3.3

三重県：39.5%（全国：42.2%） -2.7



(2) その他の特徴的な項目等の分析 (質問紙調査項目 p. 69～p. 71 参照)

【児童生徒質問紙】

《基本的な生活習慣について》

小学校・中学校

(分析)

- ・ 普段 (月～金曜日)、1日当たりのテレビ、ビデオ・DVD、テレビゲームの視聴等や、携帯電話やスマートフォンの通話やメールの時間が短い児童生徒は、全ての教科で平均正答率が高い傾向が見られます。
- ・ 学校の授業時間以外の普段 (月～金曜日) の1日当たりの勉強時間が長い児童生徒、土曜日や日曜日など学校が休みの日の1日当たりの勉強時間が長い児童生徒、家で学校の授業の復習をしている児童生徒は、全ての教科で平均正答率が高い傾向が見られます。

(改善ポイント)

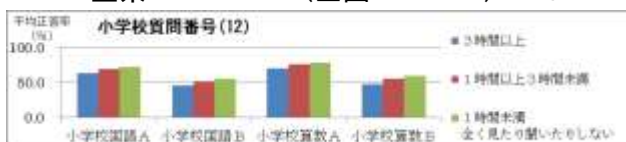
テレビ等の視聴やスマートフォン等の使用について計画的に行うことと併せて、家庭での学習時間に移行できるような取組を推進するため、学校の宿題や課題の与え方の工夫とともに家庭での生活習慣の確立に向けた取組が必要です。

例えば、県で展開している「みえの学力向上県民運動」では、家庭で読書習慣・生活習慣を身に付けるための「チェックシート」の取組を行っています。本シートを定期的に活用し、家庭での対話の大切さを啓発することができます。より効果的に活用するために、学校で回収して、児童生徒の状況を把握し個別面談等で活用することも考えられます。

- ① 普段 (月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか。 [質問番号(11)] (テレビゲームをする時間は除く) (「3時間以上」と回答した割合)
三重県 : 38.4% (全国 : 38.0%) +0.4
三重県 : 35.2% (全国 : 31.5%) +3.7



- ② 普段 (月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム (コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む) をしますか。 [質問番号(12)]
(「3時間以上」と回答した割合)
三重県 : 18.8% (全国 : 17.0%) +1.8
三重県 : 24.0% (全国 : 20.3%) +3.7



- ③ 普段 (月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。 [質問番号(13)]
(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く) (「3時間以上」と回答した割合)
三重県 : 5.6% (全国 : 5.0%) +0.6
三重県 : 24.5% (全国 : 19.8%) +4.7



《規範意識について》

小学校・中学校

(分析)

・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した児童生徒の方が、全ての教科で平均正答率が高い傾向が見られます。

(改善ポイント)

学校生活上の諸問題を話し合っ解決していく中で、自らの生活習慣を向上させようとしたり、ルールを遵守しようとしたりすることは、自ら学習に取り組む意欲を高め、より学習した内容が身に付いていくことにつながると考えられます。

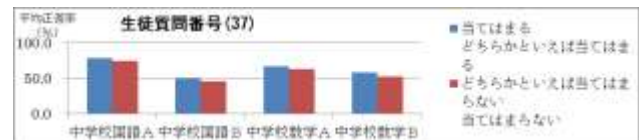
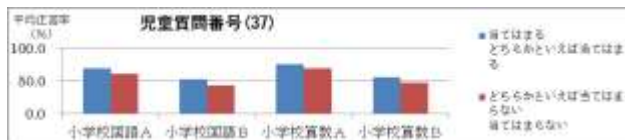
例えば、道徳の時間を充実させ、児童生徒に「いじめ」を許さない態度とともに実生活で実践する力を養っていくことも大切です。また、定期的実施しているいじめの実態を把握するためのアンケート等を活用して、必要な手立てを講じることにより、児童生徒が安心して学習できる環境を作ることが大切です。

⑥いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。[質問番号(37)]

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

三重県：96.3% (全国：96.4%) -0.1

三重県：92.8% (全国：93.4%) -0.6



《学習状況等について》

小学校・中学校

(分析)

・普段の日及び学校が休みの日に関わらず、1日当たりの勉強時間が長いと回答している児童生徒は、全ての教科で平均正答率が高い傾向が見られます。

・「総合的な学習の時間で、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」と回答した児童生徒は、全ての教科で平均正答率が高い傾向が見られます。

・小学校では、「授業のはじめに目標（めあて・ねらい）が示されていたり、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていた」と回答した児童は、全ての教科で平均正答率が高い傾向が見られます。

・「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている」と回答した児童生徒は、全ての教科で平均正答率が高い傾向が見られます。

・全国と比べ、本県では、「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」と回答した児童生徒が少なく、児童生徒の主体的な活動を位置付けた授業への改善が必要です。

(改善ポイント)

「課題の設定」→「情報の収集」→「整理・分析」→「まとめ・表現」の探究のプロセスを意識した問題解決的な授業とする工夫が必要です。

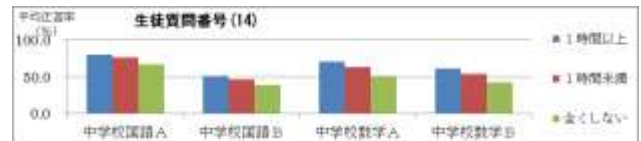
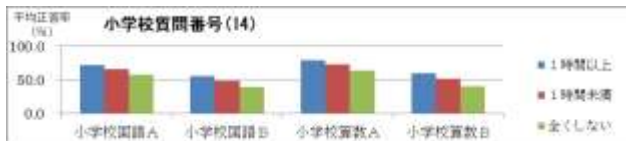
児童生徒が目標（めあて・ねらい）の提示や授業の最後に振り返る活動の実施を意識

できるよう工夫し、児童生徒が見通しを立てて主体的に学習に取り組むことができるような授業づくりが必要です。

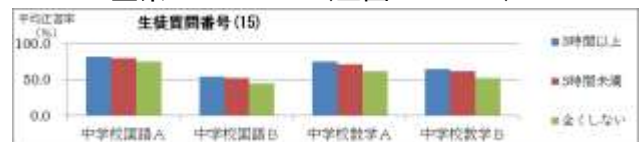
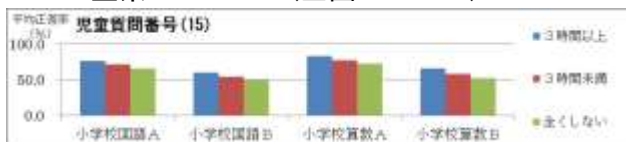
国語の授業において、普段から目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりして表現する活動を取り入れる授業の工夫が必要です。

総合的な学習の時間を中心に各教科において、児童生徒の興味・関心にそった課題を設定し、「課題の設定」→「情報の収集」→「整理・分析」→「まとめ・表現」の探究のプロセスを意識した問題解決的な授業とするよう工夫が必要です。

- ④学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。（学習塾や家庭教師を含む）[質問番号(14)] （「1時間以上」と回答した割合）
 三重県：59.4% （全国：62.0%） -2.6
 三重県：64.4% （全国：67.9%） -3.5

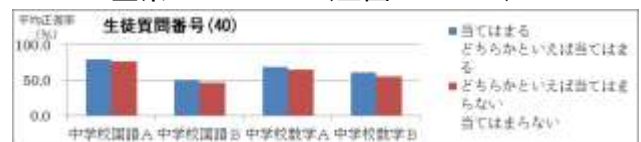
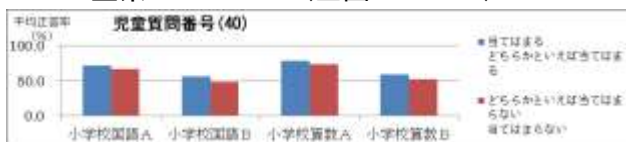


- ⑤土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。[質問番号(15)]
 （学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）（「3時間以上」と回答した割合）
 三重県：9.0% （全国：11.5%） -2.5
 三重県：12.6% （全国：16.9%） -4.3



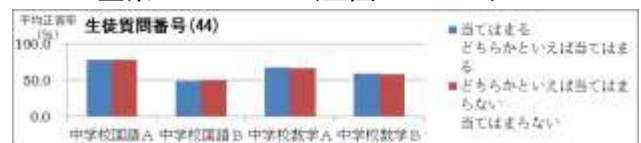
- ⑦「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。[質問番号(40)]

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）
 三重県：53.3% （全国：63.8%） -10.5
 三重県：46.2% （全国：54.8%） -8.6



- ⑧授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか。[質問番号(44)]

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）
 三重県：75.7% （全国：82.0%） -6.3
 三重県：62.1% （全国：71.5%） -9.4



- ⑨授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。[質問番号(45)]

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）
 三重県：67.1% （全国：71.9%） -4.8
 三重県：51.4% （全国：53.3%） -1.9

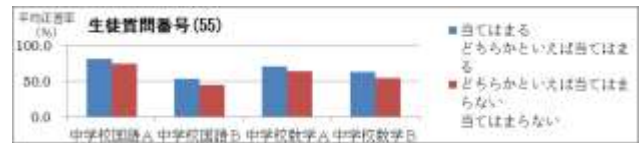


⑩国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか。

[質問番号(55)] 「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合

三重県：56.6% (全国：61.4%) -4.8

三重県：53.2% (全国：56.1%) -2.9



【学校質問紙】

《補足的な学習サポートについて》

小学校・中学校

(分析)

- ・放課後を利用した、補足的な学習サポートを週2回以上行ったと回答した学校が少なく、教科の平均正答率にも成果として表れていない状況が見られます。
- ・放課後を利用した補足的な学習サポートを実施している学校は、学力に課題が見られることも推測されるため、平均正答率に反映されていないと考えられます。

(改善ポイント)

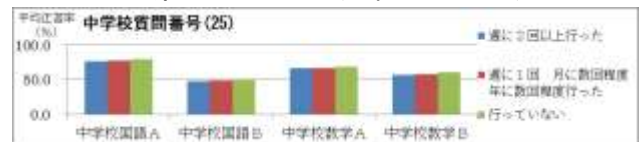
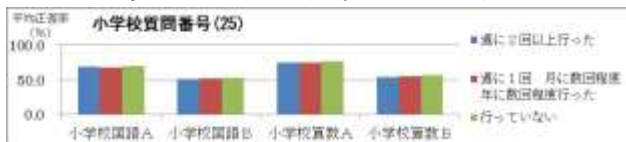
個に応じた補足的な学習サポートを継続的、系統的に実施していくことは、児童生徒の学力の定着・向上を図るために必要であり、学校全体の共通認識のもとその方法を工夫し、充実を図ることが大切です。

⑪小学校第6学年の児童・中学校第3学年の生徒に対して、前年度に、放課後を利用した補足的な学習サポートを実施しましたか。[質問番号(25)]

(「週に4回以上行った」「週に2～3回行った」と回答した割合)

三重県：18.9% (全国：17.5%) +1.4

三重県：11.8% (全国：14.1%) -2.3



《校長の見回りについて》

小学校・中学校

(分析)

- ・校長が週に2回以上授業を見回っている学校は、平均正答率が高い傾向にあります。

(改善ポイント)

組織的な授業改善の取組を促進し、校内の指導力の向上につなげるためには、授業改善に伴う校内研修会等のほか、日々の授業を校長が参観し指導・助言することは重要なことです。このことにより、教員の指導力の向上とともに組織力の向上にもつながると考えられます。

⑫校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか。[質問番号小学校(101)・中学校(99)]

(「ほぼ毎日」「週に2～3日程度」と回答した割合)

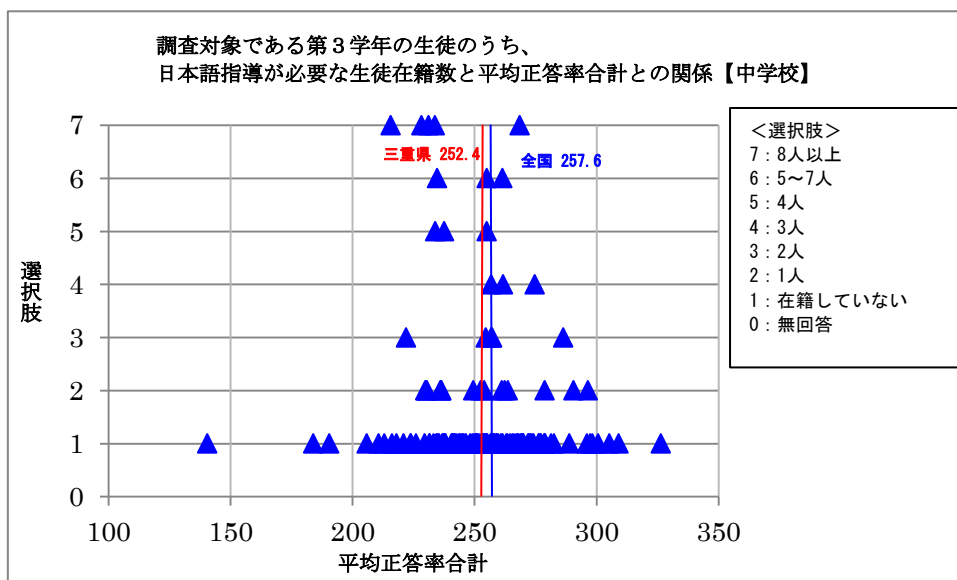
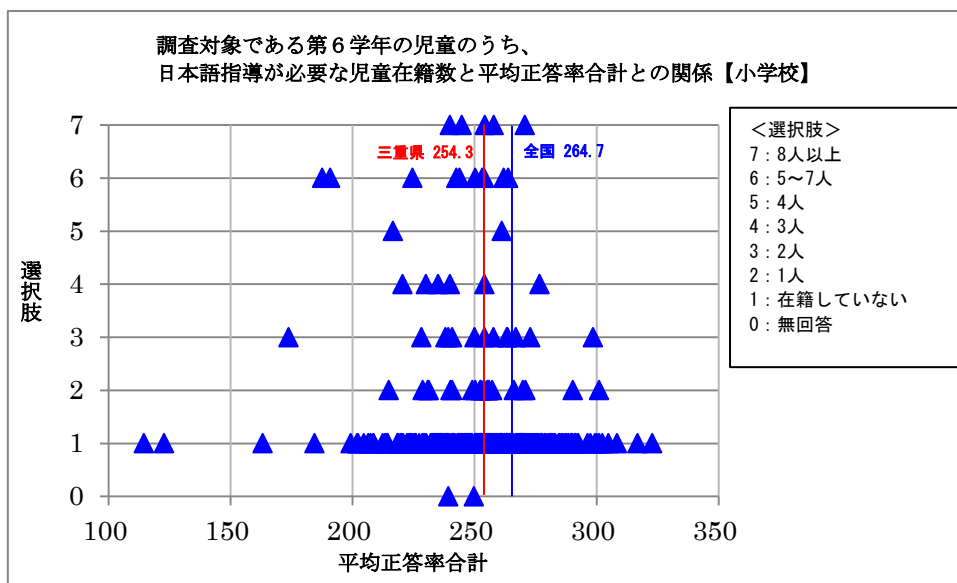
三重県：84.5% (全国：91.6%) -7.1

三重県：69.2% (全国：79.3%) -10.1



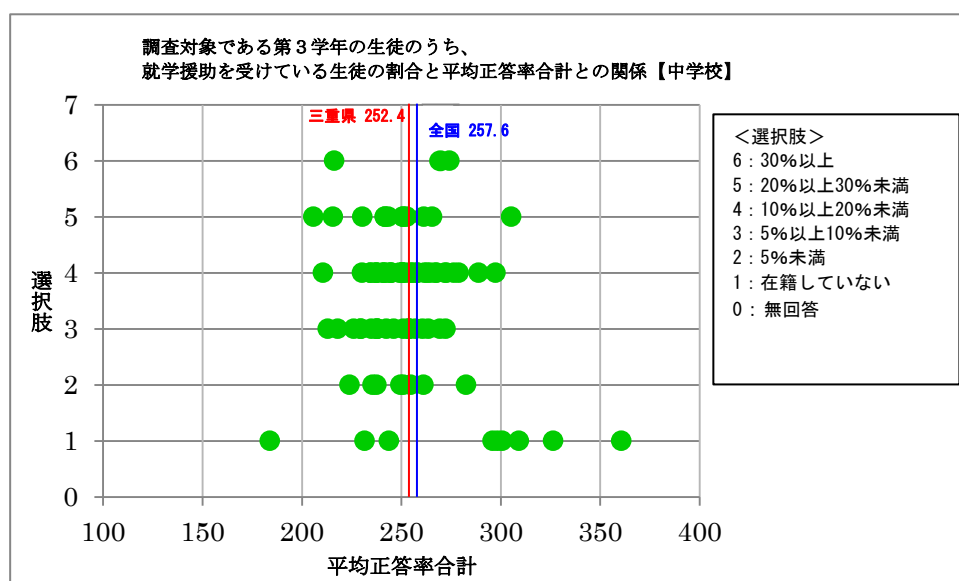
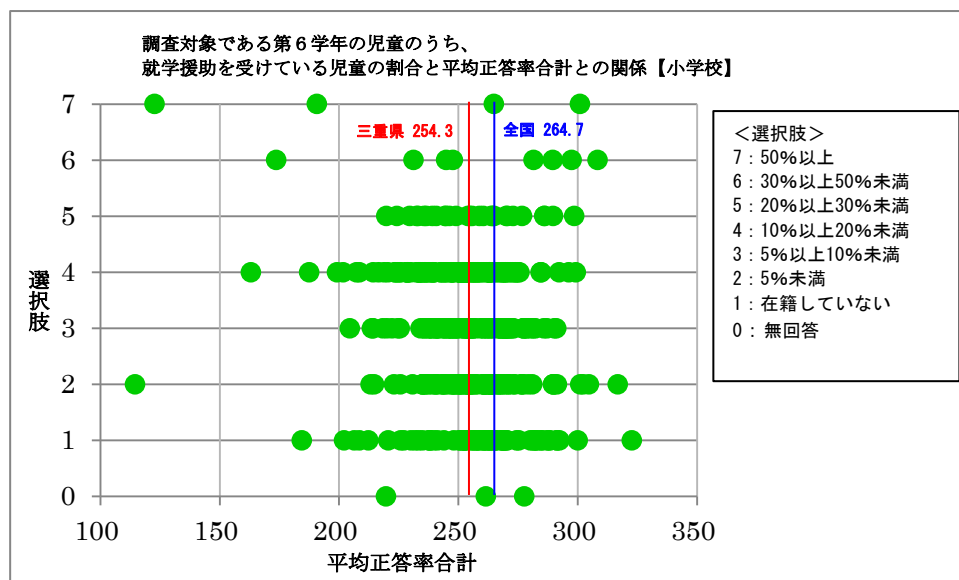
《日本語指導が必要な児童生徒について》

- ・日本語指導が必要な児童生徒在籍数と平均正答率の合計との間には、明確な関係性は見られません。
- ・外国人児童生徒が在籍する学校では、在籍学級において日本語で学習する力の習得を支援する授業改善に取り組む学校が増えています。外国人児童生徒を含めた、すべての児童生徒の学力の向上につながる、わかりやすい指導に向けた教員の意識が高まっていると考えられます。
- ・なお、本県に比べて在籍率が高い県外の自治体においても、本年度、小学校では、国語A以外は全国の平均正答率を上回る結果となっており、在籍率が高いといった理由で平均正答率が低くなるとは一概には言えません。



《就学援助を受けている児童生徒について》

- ・就学援助を受けている児童生徒の在籍割合と平均正答率の合計との間には、明確な関係性は見られません。
- ・就学援助を受けている児童生徒の割合が高い学校では、平均正答率との関連が見られる、「将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導」「朝の読書などの一斉読書の時間の設定」「地域の人材を外部講師として招聘した授業」「博物館や科学館、図書館を利用した授業」「学校の教育目標やその達成に向けた方策について、教員の間での共有と取組」「国語の指導として、書く習慣を付ける授業」「算数の指導として、補充的な学習の指導」「家庭学習の課題の与え方について、教員で共通理解を図る」「学校の教育活動の情報についてホームページを更新し、情報提供を行う」などの取組が、学校全体で行われています。



(3) 全国学力・学習状況調査結果から見られる事業の取組状況

全国学力・学習状況調査は4月に実施されることから、教科に関する調査では前年度までの学習状況を、質問紙調査では前年度の取組状況をまとめています。このことから、平成26年度調査では平成25年度の取組を、平成25年度調査では平成24年度の取組を検証することになります。

① 平成25年度学力向上に向けた指導体制確立支援事業について

取組概要

児童生徒の学力向上を図るため、全国学力・学習状況調査の活用に係る市町の取組への支援を行うとともに、県教育委員会の指導主事や学力向上アドバイザー（5名）を学力の定着に課題を抱え、主体的に課題改善に取り組む実践推進校（100校）へ派遣するなどし、取組を支援してきました。

ア 平均正答率について

平成25年度の実践推進校（小学校68校、中学校32校）の結果を分析しました。

《小学校》

《中学校》

	国語A		国語B		算数A		算数B			国語A		国語B		数学A		数学B	
	H25	H26	H25	H26	H25	H26	H25	H26		H25	H26	H25	H26	H25	H26	H25	H26
実践推進校	62.0	70.4	48.8	53.5	77.2	76.8	57.4	57.1	実践推進校	74.7	77.0	65.7	47.6	62.9	66.3	39.5	57.1
全国との差	-0.7	-2.5	-0.6	-2.0	0	-1.3	-1.0	-1.1	全国との差	-1.7	-2.4	-1.7	-3.4	-0.8	-1.1	-2.0	-2.7
実践推進校以外	59.6	69.0	45.8	52.0	75.3	75.8	54.5	55.4	実践推進校以外	75.0	78.3	65.7	49.5	63.3	67.2	39.2	58.6
全国との差	-3.1	-3.9	-3.6	-3.5	-1.9	-2.3	-3.9	-2.8	全国との差	-1.4	-1.1	-1.7	-1.5	-0.4	-0.2	-2.3	-1.2
三重県	60.3	69.6	46.7	52.5	75.8	76.2	55.3	56.0	三重県	75.0	78.0	65.8	49.0	63.2	67.1	39.3	58.3
全国	62.7	72.9	49.4	55.5	77.2	78.1	58.4	58.2	全国	76.4	79.4	67.4	51.0	63.7	67.4	41.5	59.8

- ・平成25年度実践推進校の小学校の平均正答率は、実践推進校以外の学校を全ての教科で上回っています。一方、中学校においては、十分に効果が表れていない状況があります。
- ・平成25年度実践推進校の小学校、中学校の平均正答率は、ともに全国平均を下回っており、課題は大きい状況にあります。
- ・中学校においては、教科担任制のため、該当教科の指導に関わる教員に限られるということもあり、習熟度に応じた指導やティームティーチングの実施率も低い傾向と相まって、成果に結びついていないことが考えられます。
- ・平成15年度から「みえ少人数教育推進事業」を推進し、基本的な生活習慣や基礎・基本の学力の定着と、確かな学力の定着と生きる力の育成を図ってきているところですが、学力向上に特化した非常勤講師の活用が不十分なため、成果に結びついていないことが考えられます。
- ・その学校の課題解決に適した非常勤講師の配置が不十分または困難な状況も考えられます。
- ・なお、平成26年度の実践推進校の選定基準は、平成24年度～25年度における指定基準から変更し、過去の全国学力・学習状況調査の結果を踏まえて決定しています。

イ 質問紙から見られる取組の分析と改善ポイント

(分析)

- ・算数・数学の授業において、「習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにした」「習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱った」とする学校や、国語において、「チームティーチングによる指導を行った」とする学校の割合は、小学校、中学校ともに減少しています。
- ・全国学力・学習状況調査の自校の結果の活用率は、高くなってきています。また、小学校において、自校の結果等を踏まえた学力向上のための取組について、「保護者や地域の人たちに対して働きかけを行った」とする学校の割合、及び中学校において、「学校全体で教育活動を改善するために活用した」とする学校の割合は、昨年に比べ高くなってきています。
- ・小学校、中学校ともに、少人数による指導やチームティーチングの授業形態が減少傾向にあります。

(改善ポイント)

学校の実態や児童生徒の状況に合わせ、個に応じた授業の工夫が大切です。

各実践推進校において、国語、算数・数学での少人数指導等が実践されていますが（下記参考）、全国学力・学習状況調査の成果に十分結びついていない状況です。学校質問紙にもあるように、習熟の遅いグループや習熟の早いグループに対して少人数による指導を行ったりするなど、子どもたちの学習状況に合わせ、目的を明らかにした少人数による指導を行う必要があります。

また、実践推進校に対しては、授業改善の指導・助言を行う学力向上アドバイザーの派遣によって、一定の授業改善が図られています。今後は、習熟度に応じた効果的な少人数指導の推進や言語活動の充実など、効果的な取組を支援する視点から、派遣目的を一層明確にした学校訪問を行っていく必要があります。さらに、学力向上アドバイザーからのアドバイスを校内研修等において学校全体で情報共有し、さらなる指導の充実を図っていく必要があります。

(参考)

※H25年度の学力向上アドバイザーの派遣回数（延べ数）

小学校：590回

中学校：243回

※少人数指導等が行われた教科の状況（小学校68校、中学校32校）

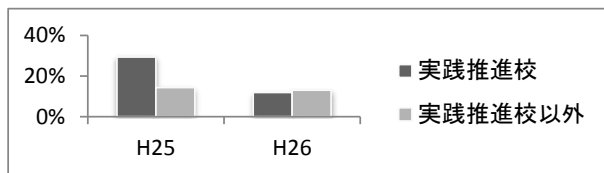
小学校：国語25.0% 算数82.4%

中学校：国語15.6% 数学78.1%

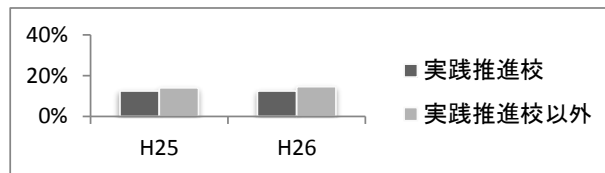
(ア) 少人数指導について

【学校質問番号(53)】 調査対象学年の児童生徒に対して、算数・数学の授業において、前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか。(「年間の授業のうち、およそ2分の1以上で行った」と回答した割合)

《小学校》

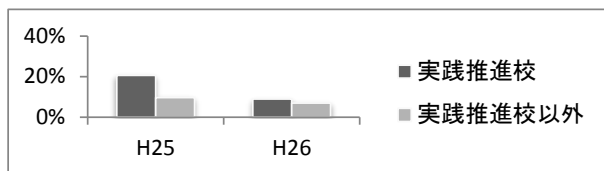


《中学校》

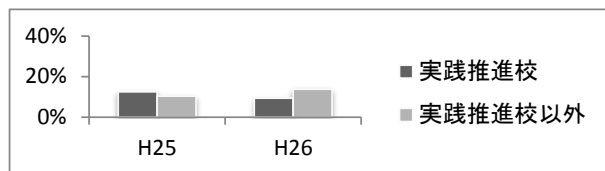


【学校質問番号(54)】 調査対象学年の児童生徒に対して、算数・数学の授業において、前年度に、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱いましたか。(「年間の授業のうち、およそ2分の1以上で行った」と回答した割合)

《小学校》

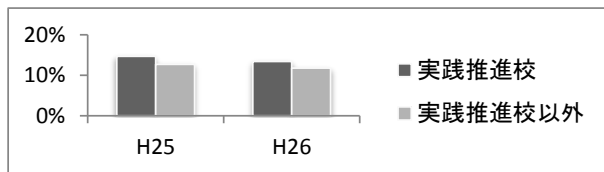


《中学校》

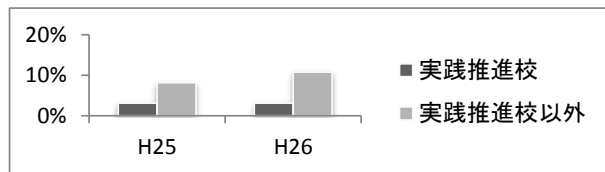


【学校質問番号(55)】 調査対象学年の児童生徒に対して、算数・数学の授業において、小学校第4学年・中学校第1学年のときに、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか。(「年間の授業のうち、およそ2分の1以上で行った」と回答した割合)

《小学校》

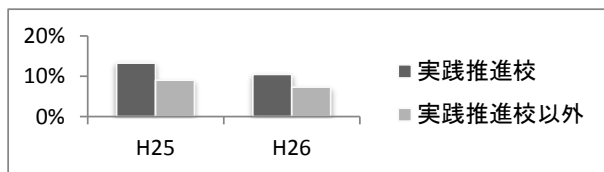


《中学校》

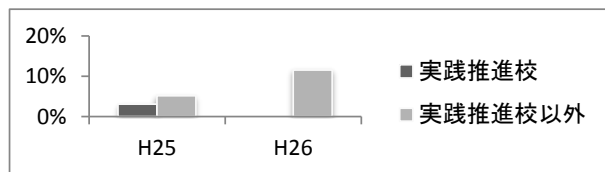


【学校質問番号(56)】 調査対象学年の児童生徒に対して、算数・数学の授業において、第4学年・第1学年のときに、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱いましたか。(「年間の授業のうち、およそ2分の1以上で行った」と回答した割合)

《小学校》



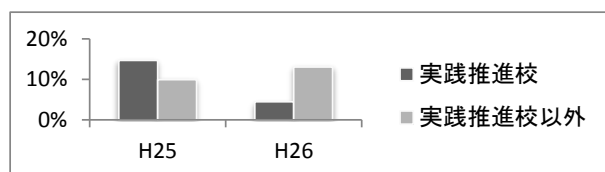
《中学校》



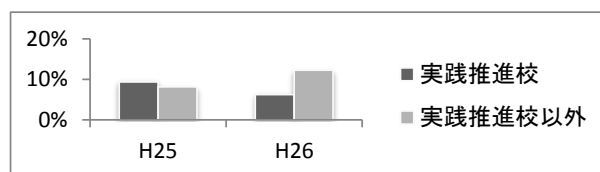
※H25は、質問紙調査が3分冊になっており、モデル校の質問紙には該当項目がなかったため、グラフはありません。

【学校質問番号(57)】 調査対象学年の児童生徒に対して、国語の授業において、前年度に、チームティーチングによる指導を行いましたか。（「年間の授業のうち、およそ2分の1以上で行った」と回答した割合）

《小学校》



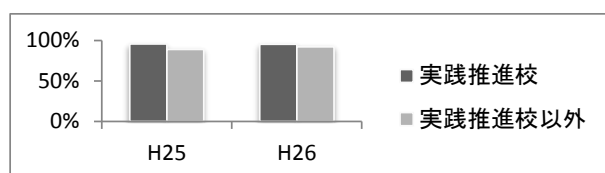
《中学校》



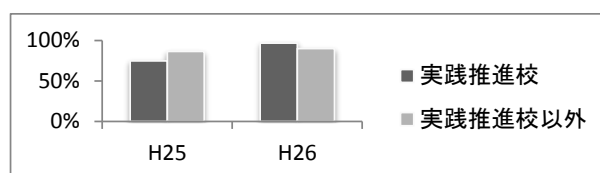
(イ) 全国学力・学習状況調査の活用について

【学校質問番号(48)】 平成25年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか。（「よく行った」「行った」と回答した割合）

《小学校》

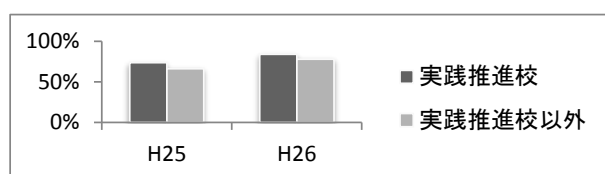


《中学校》

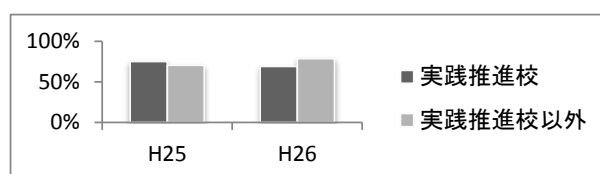


【学校質問番号(49)】 平成25年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか。（学校のホームページや学校だより等への掲載、保護者会等での説明を含む）（「よく行った」「行った」と回答した割合）

《小学校》

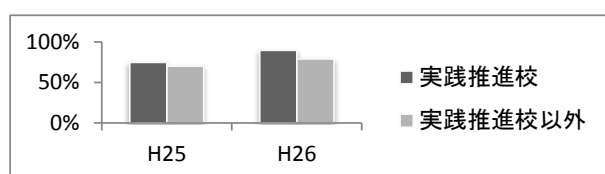


《中学校》

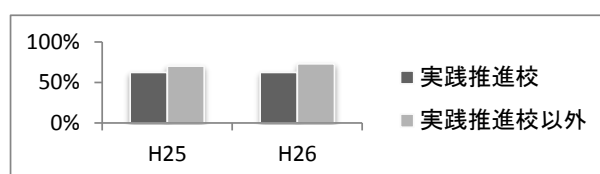


【学校質問番号(50)】 平成25年度全国学力・学習状況調査や学校評価の自校の結果等を踏まえた学力向上のための取組について、保護者や地域の人たちに対して働きかけを行いましたか。（「よく行った」「行った」と回答した割合）

《小学校》

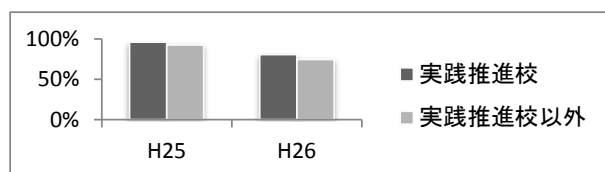


《中学校》

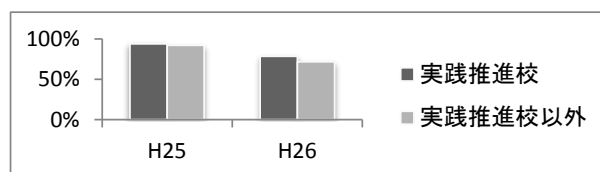


【学校質問番号(51)】全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか。(「よく行っている」「どちらかといえば、行っている」と回答した割合)

《小学校》



《中学校》



② 平成25年度地域と協働する学校運営支援事業について

取組概要

社会全体で子どもを育てるという視点を重視し、学校・家庭・地域が一体となって課題を共有し、保護者や地域住民等による学校運営や教育活動への積極的な参画を進めるため、市町教育委員会と連携し、公立小中学校へのコミュニティ・スクール等の導入を進めるなど、地域に開かれた学校づくりを推進します。

ア 平均正答率について

平成25年度までに、コミュニティ・スクールに指定されている学校（小学校38校、中学校15校）の結果を分析しました。

《小学校》

	国語A		国語B		算数A		算数B	
	H25	H26	H25	H26	H25	H26	H25	H26
指定校	59.4	70.2	46.8	54.3	75.1	76.2	55.2	56.7
全国との差	-3.3	-2.7	-2.6	-1.2	-2.1	-1.9	-3.2	-1.5
指定校以外	60.4	69.3	46.6	52.1	75.9	76.1	55.3	55.8
全国との差	-2.3	-3.6	-2.8	-3.4	-1.3	-2.0	-3.1	-2.4
三重県	60.3	69.6	46.7	52.5	75.8	76.2	55.3	56.0
全国	62.7	72.9	49.4	55.5	77.2	78.1	58.4	58.2

《中学校》

	国語A		国語B		数学A		数学B	
	H25	H26	H25	H26	H25	H26	H25	H26
指定校	73.6	77.1	65.5	49.2	61.8	66.5	37.3	58.3
全国との差	-2.8	-2.3	-1.9	-1.8	-1.9	-0.9	-4.2	-1.5
指定校以外	75.2	78.1	65.8	48.9	63.4	67.1	39.6	58.1
全国との差	-1.2	-1.3	-1.6	-2.1	-0.3	-0.3	-1.9	-1.7
三重県	75.0	78.0	65.8	49.0	63.2	67.1	39.3	58.3
全国	76.4	79.4	67.4	51.0	63.7	67.4	41.5	59.8

コミュニティ・スクールに指定されている学校では、小中学校ともに全ての教科において、全国の平均正答率との差が縮まっています。

イ 質問紙から見られる取組の分析と改善ポイント

(分析)

- ・コミュニティ・スクールでは、保護者や地域住民などが、学校運営や教育活動に主体的に参画する取組が継続的に進められており、子どもたちの学力向上に効果が見られます。
- ・PTAや地域の人が学校の諸活動にボランティアとして参加したり、学校運営

に参画できる仕組みを構築し地域と密着した取組を進めることは、学力向上に効果があります。

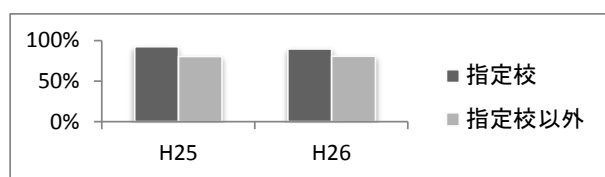
(改善ポイント)

コミュニティ・スクールは、保護者や地域住民等が一定の権限と責任を持って学校運営に参画することにより、学校・地域が協力して学校教育をつくりあげていく仕組みの一つです。この取組は、「みえの学力向上県民運動」で進めている「学校・家庭・地域が役割を認識し、県民一人ひとりが当事者意識を持ち、子どもたちの学力を一層育んでいく」という趣旨を具現化するものです。

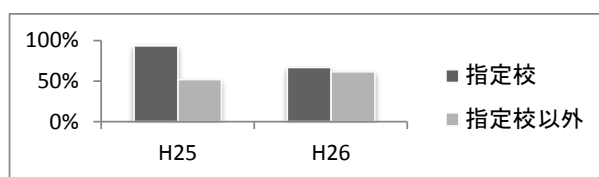
まずは、学校支援地域本部などを導入して、学校への協力体制を築き、段階的にコミュニティ・スクール等、学校・家庭・地域が一体となって組織的に課題を解決する仕組みへと発展させていくなどの推進を図っていくことが大切です。

【学校質問番号・小学校(73)中学校(71)】調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか。(「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合)

《小学校》

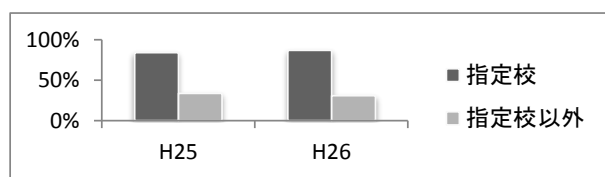


《中学校》

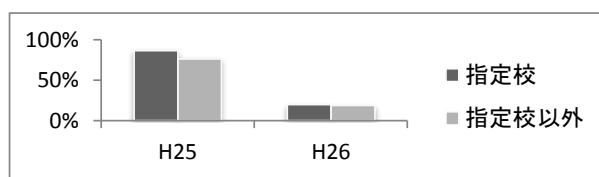


【学校質問番号・小学校(74)中学校(72)】調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、ボランティア等による授業サポート(補助)を行いましたか。(「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合)

《小学校》

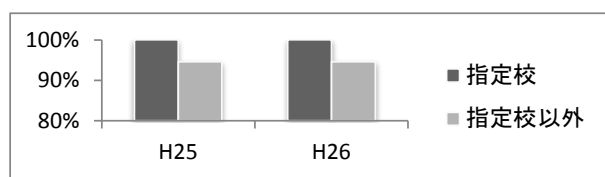


《中学校》

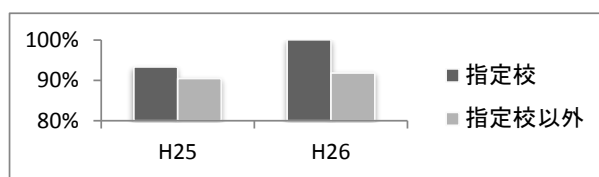


【学校質問番号・小学校(77)中学校(75)】PTAや地域の人が学校の諸活動(学校の美化など)にボランティアとして参加してくれますか。(「よく参加してくれる」「参加してくれる」と回答した割合)

《小学校》

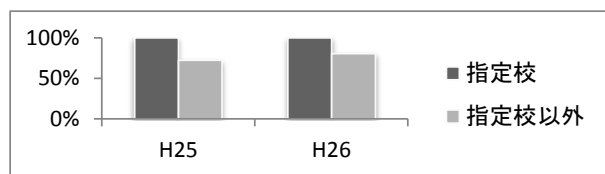


《中学校》

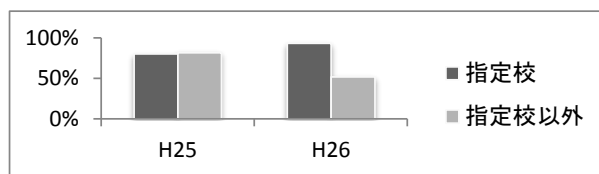


【学校質問番号・小学校(78)中学校(76)】学校支援地域本部などの学校支援ボランティアの仕組みにより、保護者や地域の人が学校における教育活動や様々な活動に参加してくれますか。(「よく参加してくれる」「参加してくれる」と回答した割合)

《小学校》

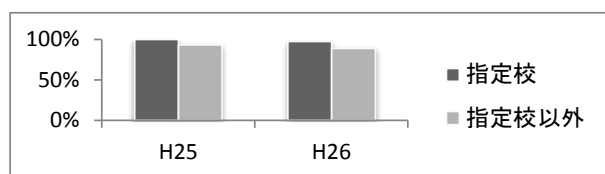


《中学校》

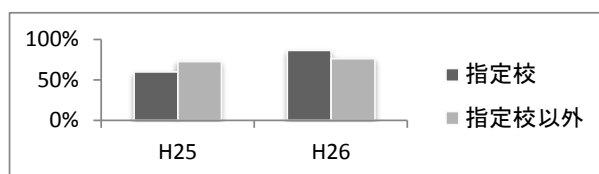


【学校質問番号・小学校(79)中学校(77)】保護者や地域の人々の学校支援ボランティア活動は、学校の教育水準の向上に効果がありましたか。(「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した割合)

《小学校》



《中学校》



③ 平成25年度地域による学力向上支援事業について

取組概要

大学生や教員OB等地域住民がその知識・技能を活用し、教科指導の補助を行う等、学校支援地域本部の仕組みを導入した地域による学力向上の支援体制を構築します。

本事業は平成25年度に事業を受託し、学校支援地域本部を設置している学校の調査結果を分析したものとっています。

ア 平均正答率について

平成25年に学校支援地域本部を設置している学校（小学校134校、中学校41校）の結果を分析しました。

《小学校》

	国語A		国語B		算数A		算数B	
	H25	H26	H25	H26	H25	H26	H25	H26
設置校	60.2	69.6	46.7	52.8	75.5	75.8	55.4	56.0
全国との差	-2.5	-3.3	-2.7	-2.7	-1.7	-2.3	-3.0	-2.2
設置校以外	60.3	69.3	46.6	52.1	76.0	76.1	55.2	55.7
全国との差	-2.4	-3.6	-2.8	-3.4	-1.2	-2.0	-3.2	-2.5
三重県	60.3	69.6	46.7	52.5	75.8	76.2	55.3	56.0
全国	62.7	72.9	49.4	55.5	77.2	78.1	58.4	58.2

《中学校》

	国語A		国語B		数学A		数学B	
	H25	H26	H25	H26	H25	H26	H25	H26
設置校	74.3	77.3	65.3	48.4	62.4	66.7	38.4	57.9
全国との差	-2.1	-2.1	-2.1	-2.6	-1.3	-0.7	-3.1	-1.9
設置校以外	75.3	78.2	65.9	49.2	63.5	67.2	39.7	58.3
全国との差	-1.1	-1.2	-1.5	-1.8	-0.2	-0.2	-1.8	-1.5
三重県	75.0	78.0	65.8	49.0	63.2	67.1	39.3	58.3
全国	76.4	79.4	67.4	51.0	63.7	67.4	41.5	59.8

・学校支援地域本部を設置している小学校の平均正答率は、算数Aを除いて、設置校以外の学校を上回っています。

- ・学校支援地域本部を設置している中学校の平均正答率は、設置校以外の学校を全ての教科で下回っていますが、設置校以外の学校との差は、国語Bを除いて昨年より縮まっています。

イ 質問紙から見られる取組の分析と改善ポイント

(分析)

- ・学校支援地域本部の仕組みを導入している小中学校では、算数B、数学A・Bで、全国の平均正答率との差が縮まっています。算数、数学は、授業サポートとして支援に入りやすい教科であるため、学習支援の取組が充実していると考えられます。地域人材を活用し、学校支援の取組を組織的・継続的に行うことは、学力向上に効果があります。
- ・本事業では、放課後の補足的な学習や読み聞かせ、学習補助の他、学習環境づくりへの支援を行っています。

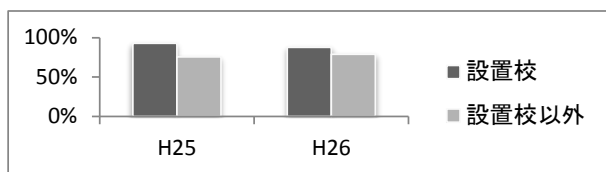
(改善ポイント)

現状において必ずしも効果が見えにくい他の教科等についても、PTAや地域の方が学校の諸活動にボランティアとして参加したり、保護者や地域の方が学校の教育活動等に参加する取組を継続的に進めることが必要です。

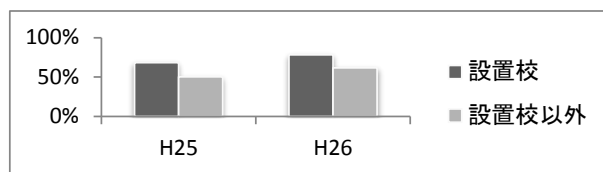
学校支援地域本部の仕組みを導入している学校では学習環境の向上に向けて、保護者や地域の人材を活用した取組を一層推進することが大切です。また、コミュニティ・スクールへの移行も期待されます。

【学校質問番号・小学校(73)中学校(71)】調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか。「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合

《小学校》

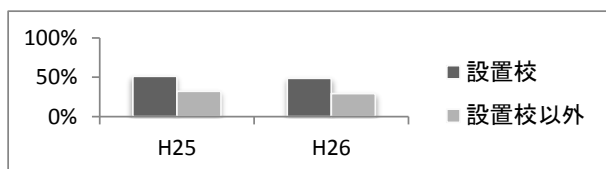


《中学校》

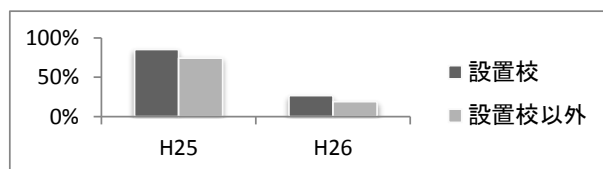


【学校質問番号・小学校(74)中学校(72)】調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、ボランティア等による授業サポート(補助)を行いましたか。「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合

《小学校》

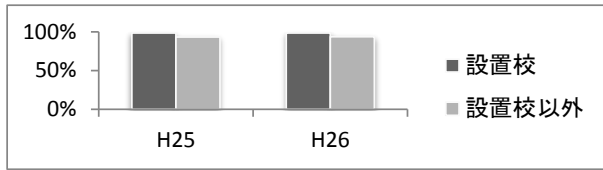


《中学校》

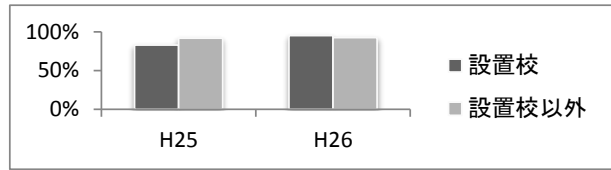


【学校質問番号・小学校(77)中学校(75)】PTAや地域の人が学校の諸活動(学校の美化など)にボランティアとして参加してくれますか。(「よく参加してくれる」「参加してくれる」と回答した割合)

《小学校》

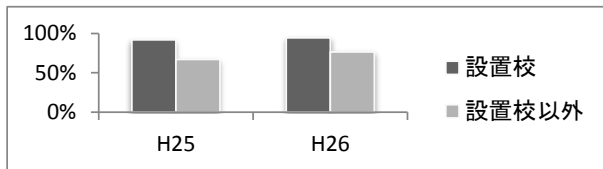


《中学校》

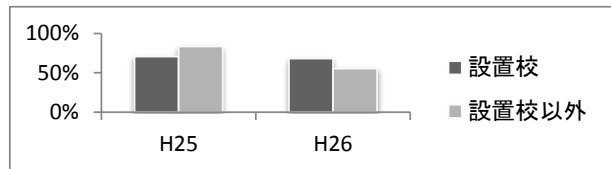


【学校質問番号・小学校(78)中学校(76)】学校支援地域本部などの学校支援ボランティアの仕組みにより、保護者や地域の人が学校における教育活動や様々な活動に参加してくれますか。(「よく参加してくれる」「参加してくれる」と回答した割合)

《小学校》

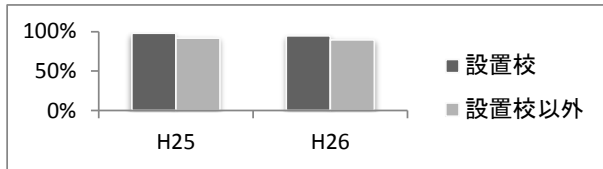


《中学校》

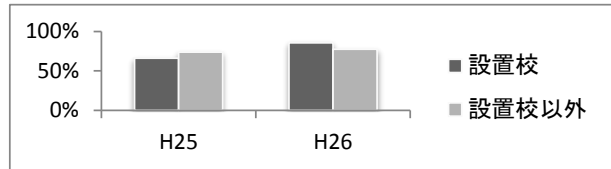


【学校質問番号・小学校(79)中学校(77)】保護者や地域の人々の学校支援ボランティア活動は、学校の教育水準の向上に効果がありましたか。(「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した割合)

《小学校》



《中学校》



④ 平成25年度学びを保障するネットワークづくり事業について

取組概要

平成24年度から毎年10中学校区程度を指定し、教育的に不利な環境のもとにある子どもの自尊感情や学習意欲が高まるよう、学校・家庭・地域が連携して子どもたちの学びを支援する「子ども支援ネットワーク」の構築に取り組んでいます。

ア 質問紙から見られる取組の分析と改善ポイント

平成25年度の11指定中学校区(小学校28校、中学校11校)の結果を分析しました。

(分析)

- ・子どもたちの自尊感情や学習意欲に向上の傾向が見られます。また、計画的に学習する習慣の改善にも効果がありました。

(改善ポイント)

本事業では、指定中学校区において、学校・家庭・地域が連携する仕組みを構築し、子どもたちの学習支援活動の創出・充実に取り組んでいます。引き続き、以下のような取組を通して、子どもたちが安心して学ぶことのできる環境づくりを進めていきます。

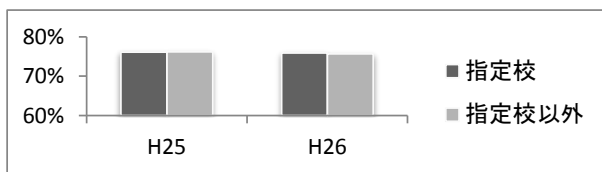
〈効果的な取組〉

- ・ 地域住民による公民館などを活用した学習会を実施します。
- ・ 地域住民による学校内での学習ボランティアを活用した取組を推進します。
- ・ 地域住民と子どもと一緒に取り組む地域行事を開催します。
- ・ 子どもが将来の夢や目標を持つことを目指した、地域にある高校の授業を体験する取組を実施します。

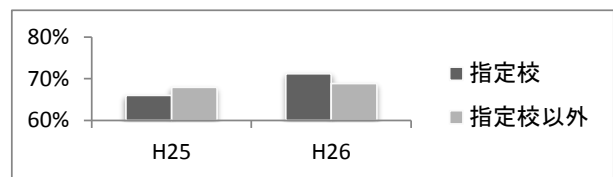
(ア) 自尊感情について

【児童生徒質問番号(6)】自分には、よいところがあると思いますか。(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

《小学校》

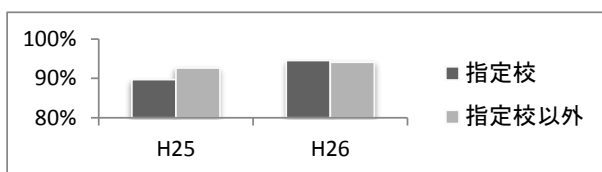


《中学校》

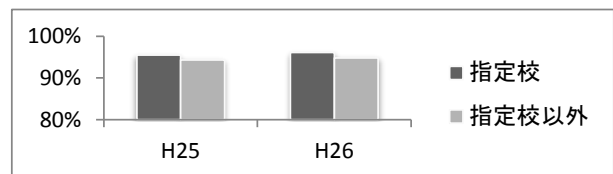


【児童生徒質問番号(36)】人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか。(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

《小学校》



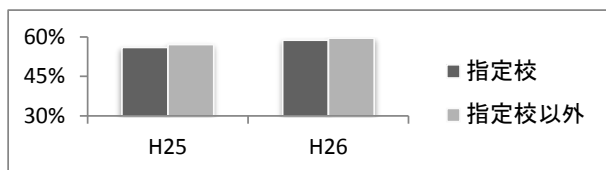
《中学校》



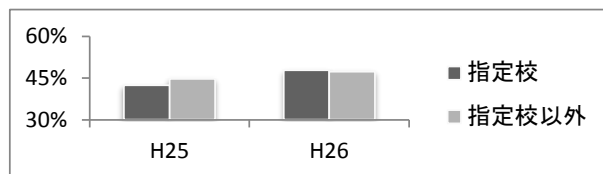
(イ) 学習意欲

【児童生徒質問番号(21)】家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。(「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合)

《小学校》

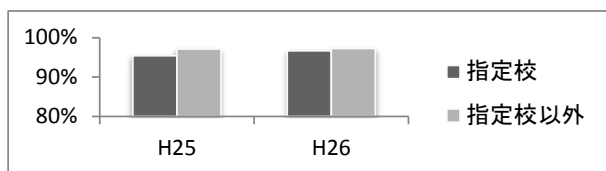


《中学校》

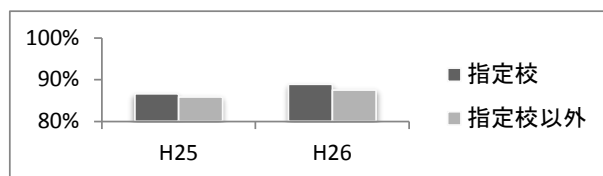


【児童生徒質問番号(22)】家で、学校の宿題をしていますか。(「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合)

《小学校》



《中学校》



⑤ 平成25年度いじめを許さない「絆」プロジェクト事業

取組概要

県内29市町の課題克服のモデルになりうる29中学校区の小中学校を指定校として、子どもたちが自らつながり合い、問題を解決していく力を育成し、いじめや暴力のない安全・安心な学校づくりに取り組んできました。

ア 質問紙から見られる取組の分析と改善ポイント

平成25年度の29中学校区(小学校78校、中学校29校)の結果を分析しました。

(分析)

- ・中学校におけるマナーに関する項目「友達との約束を守っている」では、昨年度より低くなっていますが、その他の項目において、小中学校ともに昨年度より高い状況が見られ、指定校における児童生徒の規範意識等が向上しています。特に、「いじめはいけない」という意識の醸成に効果がありました。

(改善ポイント)

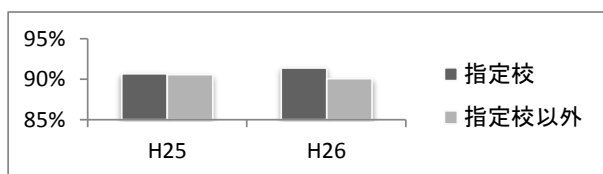
本事業では、指定校における①学習や生活ルールの定着、②リレーション(親和的な関係づくり)の構築による、安心できる学習環境の向上を目指しています。児童生徒の意識は改善の方向にあるものの、引き続き、落ち着いて授業ができる学校環境をつくっていく必要があります。

〈効果的な取組〉

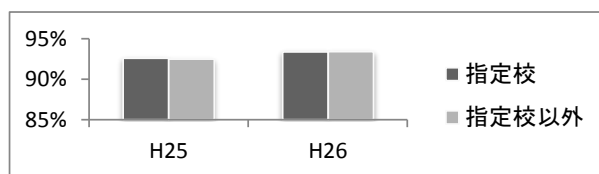
- ・学級満足度調査等により分析を行うことで、個別に応じた対応を行います。
- ・小学校における全学年によるルールづくりの取組と、定期的な振り返りを行います。(ルールに学級間の差をなくします。授業の中で定着を図ります。児童自身に考えさせます。)
- ・教科の授業の中でグループ活動を取り入れ、児童生徒相互の交流を促すなど授業の工夫改善を行います。
- ・授業の中にエンカウンター、ソーシャルスキルトレーニング、ピアサポート等の要素を計画的に取り入れます。
- ・学級のめあてを設け、それに向けた取組を学級で進めます。
- ・自己肯定感や承認感を高めるために、さまざまな活動(授業・行事等)で相互評価する場面を設定します。
- ・振り返り日記や作文を書かせる機会を多く取り、学級通信で紹介したり、道徳の題材として取り上げたりして、子ども同士の思いの共有化を図ります。
- ・クラス会議の定例化、班活動の活性化により、一人ひとりの悩みや今思っていることなどについて、みんなで相談して、その解決策や意見を言い合う機会を多く持ちます。

【児童生徒質問番号(34)】学校のきまりを守っていますか。(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

〈小学校〉

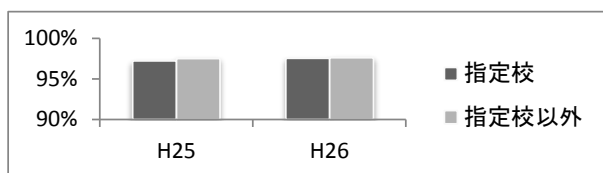


〈中学校〉

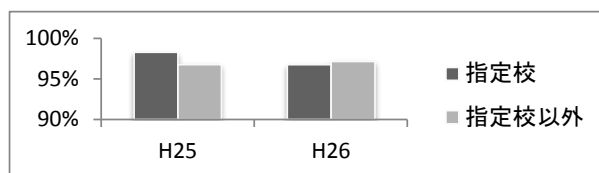


【児童生徒質問番号(35)】友達との約束を守っていますか。(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

〈小学校〉

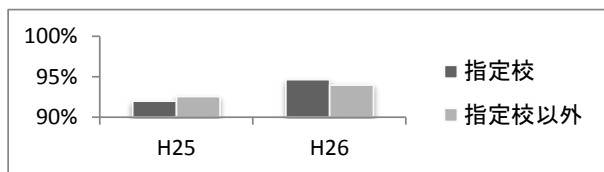


〈中学校〉

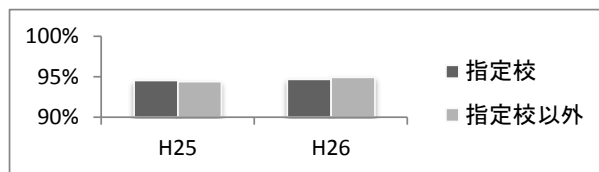


【児童生徒質問番号(36)】人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか。(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

《小学校》

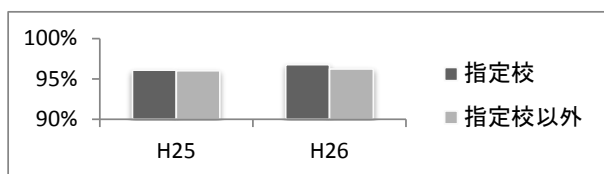


《中学校》

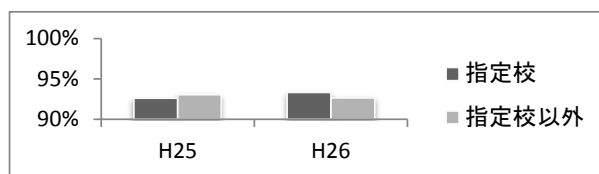


【児童生徒質問番号(37)】いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

《小学校》



《中学校》



⑥ 平成25年度学力向上のための読書活動推進事業について

取組概要

子どもの学力向上を目的に、図書館司書が配置されておらず読書環境の整備に課題のある学校(6市町10校)をモデル校に指定し、民間事業者への委託により図書館司書を配置し、司書教諭をはじめとした教員に対して学校図書館を活用した授業支援等の読書活動を推進します。

ア 平均正答率について

平成25年度のモデル校(小学校6校、中学校4校)の結果を分析しました。

《小学校》

	国語A		国語B		算数A		算数B	
	H25	H26	H25	H26	H25	H26	H25	H26
モデル校	60.2	67.1	45.5	47.3	74.5	73.3	51.8	52.8
全国との差	-2.5	-5.8	-3.9	-8.2	-2.7	-4.8	-6.6	-5.4
モデル校外	60.3	69.5	46.6	52.5	75.8	76.2	55.3	56.0
全国との差	-2.4	-3.4	-2.8	-3.0	-1.4	-1.9	-3.1	-2.2
三重県	60.3	69.6	46.7	52.5	75.8	76.2	55.3	56.0
全国	62.7	72.9	49.4	55.5	77.2	78.1	58.4	58.2

《中学校》

	国語A		国語B		数学A		数学B	
	H25	H26	H25	H26	H25	H26	H25	H26
モデル校	72.3	75.4	61.0	45.6	58.5	64.3	33.7	55.2
全国との差	-4.1	-4.0	-6.4	-5.4	-5.2	-3.1	-7.8	-4.6
モデル校外	75.0	78.0	65.8	49.0	63.2	67.0	39.4	58.2
全国との差	-1.4	-1.4	-1.6	-2.0	-0.5	-0.4	-2.1	-1.6
三重県	75.0	78.0	65.8	49.0	63.2	67.1	39.3	58.3
全国	76.4	79.4	67.4	51.0	63.7	67.4	41.5	59.8

・モデル校の平均正答率は、全ての教科において三重県平均及び全国平均を未だに下回っているものの、1年間の学校図書館への司書配置により国語Aにおいて改

善の傾向があります。(モデル校で最も平均正答率が改善した小学校では、平成25年度46.2%から平成26年度66.7%に上昇しました。)

- ・全国的に、学校司書が配置されている学校は未配置の学校と比較して各教科の平均正答率が高い傾向にあることから、引き続き読書環境に課題のある学校において、本事業を効果的に活用し学力向上に努める必要があります。

イ 質問紙から見られる取組の分析と改善のポイント

(分析)

- ・小学校のモデル校では、学校図書館を活用した授業の回数に大きな変化はなかったものの、図書館の機能を効果的に活用した授業を実施しました。
- ・中学校のモデル校では、計画的に学校図書館を活用した授業が実施されるようになりました。
- ・モデル校における読書活動推進事業は、特に国語Aの平均正答率の向上に効果的であると考えられます。

(改善のポイント)

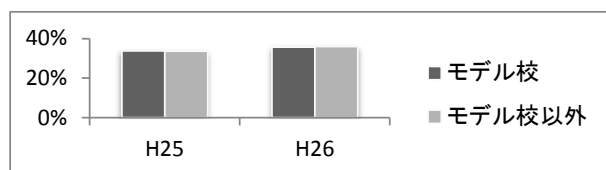
- ・学校図書館への司書配置により、校内の読書活動が進展する傾向にあります。特に、学校図書館法の改正により学校司書の配置に努めなければならないと規定されたことも踏まえ、引き続き学校司書の配置を働きかける必要があります。
- ・司書教諭をはじめとした教員と学校司書が連携した授業づくりのノウハウの普及に努める必要があります。

〈効果的な取組〉

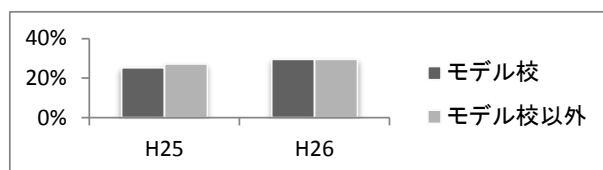
- ・授業の進捗状況に合わせたテーマコーナーやブックトークの実施により、授業内容への興味・関心を高めます。
- ・学校図書館の機能を活用したオリエンテーリング(クイズ形式の調べもの)の実施により、情報活用能力を高めます。

【児童生徒質問番号(17)】学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)(「1時間以上」と回答した割合)

《小学校》

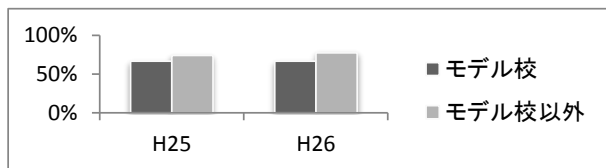


《中学校》

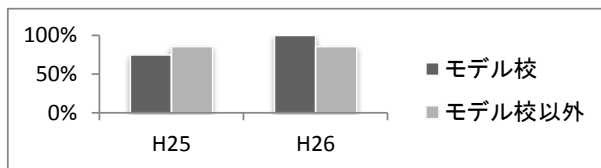


【学校質問番号(23)】調査対象学年の児童生徒に対して、前年度に、「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けましたか。(「基本的に毎日行った」「週に複数回、定期的に行った」と回答した割合)

《小学校》

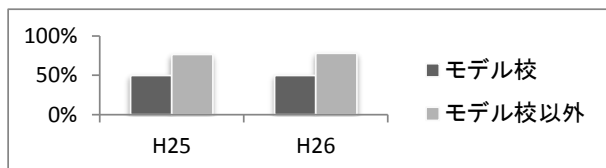


《中学校》

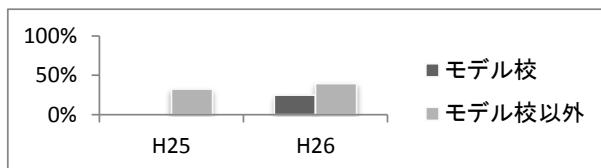


【学校質問番号(24)】 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度に、学校図書館を活用した授業を計画的に行いましたか。（「週に1回程度、または、それ以上行った」「月に数回程度行った」「学期に数回程度行った」と回答した割合）

《小学校》



《中学校》



※H25は、質問紙調査が3分冊になっており、モデル校の質問紙には該当項目がなかったため、グラフはありません。